

「嬉野市新庁舎建設基本設計(案)概要説明書」について、市民の皆様からご意見を募集したところ、1件(1名)のご意見をいただきました。いただいたご意見及びご意見に対する市の対応について、公表いたします。

- 1. 意見募集期間 令和5年12月27日(水)から令和6年1月15日(月)
- 2. 公表資料 「嬉野市新庁舎建設基本設計(案)概要説明書」
- 3. 周知方法 市ホームページ、嬉野市図書館(嬉野図書館・塩田図書館)
- 4. 意見件数 1件(1名)
- 5. ご意見の内容及び対応 下記のとおり

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
1	<p>私は、毎日文化センターの図書館を利用しています。図書館の外に中庭があり、外で読書をしようと思えばできます。でも外で読書をしている方をみかけたことは一度もありません。文化センターの公道に通じる導線や駐車場を犠牲にしてまで読書テラスを作る必要性は疑問です。しかも公道に面して身障者用駐車場を文化センター前に作られるようですが、介護者にとって車の出し入れに危険が伴いますし、使い勝手が悪いので利用者はいないと思います。身障者の専用駐車場は安心して駐車できる中庭につくるべきではないでしょうか？</p> <p>文化センターの利用促進の観点からも現状の駐車スペースは維持して出入り口も県道からも入れるようにした方がよいと思います。</p> <p>嬉野は緑に囲まれた地域です。大都会のように中庭に植木のスペースをつくる必要性は疑問です。このようなものをつくと植木の管理も大変です。維持費もかかります。つくるとしても利便性に支障のない道路との境界に植木のスペースをつくるだけで十分です。せっかくなのですからこのようなものがあればいいかなといったイメージを先行させて、無駄な支出のシンボルにならないことを祈るばかりです。人のふりみて我が身を正せではありませんが、県知事の新幹線コースの奇をてらう提言や少子化の中で必要性の疑われる県立大学をつくるといった発想をみて、向こうの反省の材料にさせていただきたいと思えます。</p> <p>それから嬉野プロムナードの導線は文化センターの価値を高めるものではありません。読書テラスを活かすためにつけたとしたもので、導線は何のために作るのか基本的に考え直していただきたいです。</p>	<p>嬉野市新庁舎の建設に向けては、隣接する文化センターとの相互利用により、できるだけ建物のコンパクト化を図り、建設コストの縮減に努めることにしています。嬉野市新庁舎の設計コンセプトとして、「嬉野の環境・風景に呼応し、地域や市民をつなぎ育む交流拠点庁舎」を掲げており、新庁舎と文化センターとの間に読書テラスを整備することで、敷地全体の活性化を促し、施設全体がまちの交流拠点となることを目指しています。読書テラスは読書だけでなく市民同士の会話や出会いの場など多目的に利用できるように、市民の皆さんの満足度の高い憩いの広場として利用してもらえよう場を提供していきたいと思います。</p> <p>文化センターの身障者用駐車場は、利用者の利便性を考慮し、より施設に近い位置に設けていますが、ご懸念の車の出し入れにつきましては、道路への出入り口の見通しなどに配慮しながら、身障者用駐車場を利用される方が安心して利用できるように実施設計の中で考えていきます。</p> <p>読書テラスのスペースにつきましては、植栽などを施すことで、よりくつろぎやすい空間を創出する一方で、管理面にも十分配慮して整備することにしていきます。</p> <p>嬉野プロムナードは、文化センターの価値を高めるだけのために整備するものではなく、新庁舎を中心とした連携軸をつくり、新庁舎と文化センター、まちと新庁舎をつなぐ役割を担うものであり、交流拠点庁舎としての軸にしたいと思えます。</p>